

## 貝類（海産）

広島県産の貝類についての詳細な記載は、瀧 巖（1938）による「広島県貝類目録」からであり、アメフラシ類、陸貝、汽水域の種を除き、海産約 470 種が記載されている。また、稲葉明彦（1982）により発刊された「瀬戸内海の貝類」には瀬戸内海全般の海産貝類が記載されており、その中で広島県に該当する安芸灘、備後灘に分布する種を合計すると約 500 種（ウミウシ類を除く）となる。これらの目録を目標として、1969 年から 2020 年までに確認した広島県産の海産貝類（死殻を含む）は 570 種で、広島県産の海産貝類は 500～600 種と推定される。今回この中から絶滅種 15 種、絶滅危惧 I 類 30 種、絶滅危惧 II 類 15 種、準絶滅危惧 11 種、情報不足 18 種を選定した。

貝の減少が確認され始めたのは 1970 年頃からで、ミクリガイ、コナガニシ、オウウヨウラク、クダマキガイ、シラオガイ、バカガイなどのように急速に絶滅した種や、絶滅と思われたがわずかに確認され、絶滅危惧 I 類と選定されたトウイト、テングニシなどがある。ナギサマメシラスナガイは産地が 1 か所しかなく情報不足となる種であるが、比較的新しく記載された種であり、国内ではまだ 3 か所しか産地が知られていないため、この産地が消失すれば西日本以南の産地が消失するため絶滅危惧 I 類とした。コヅツガイも産地が 1 か所であり、さらに確認できたのも 1 個体である。確実な生息地は沖縄地方だけであり、広島県では底引き漁で棲管の一部や死殻がまれに確認できるが、瀬戸内海の記録は少ない。以前は広範囲に生息していた可能性は大きいですが、現在生貝の記録は貴重なため絶滅危惧 I 類とした。

（濱村陽一）

### 貝類（海産）選定種

絶滅（EX）	8 テングニシ	1 ウスヒメアワビ
1 ミクリガイ	9 ヒラドサンゴヤドリ	2 アシヤガマ
2 コナガニシ	10 コロモガイ	3 スカシエビスガイ
3 ヒメホネガイ	11 タマノミドリガイ	4 セムシマドアキガイ
4 オウウヨウラク	12 イソチドリ	5 ヘナタリ
5 チリメンボラ	13 アサヒキヌタレガイ	6 カワアイ
6 ツノオリエレガイ	14 シコロエガイ	7 スジウネリチョウジガイ
7 フデガイ	15 ナギサマメシラスナガイ	8 ゴマツボ
8 リュウグウボタル	16 イタボガキ	9 シラギク
9 クダマキガイ	17 サザナミガイ	10 ヤセフタオビツマミガイ
10 イシカゲガイ	18 イセシラガイ	11 オリエレシラタマ
11 シラオガイ	19 コフジガイ	12 ツガイ
12 ハマグリ	20 フジタニコハクノツユ	13 ナガニシ
13 イチョウシラトリ	21 ヒナノズキン	14 シナヤカスエモノガイ
14 アオサギガイ	22 オキナノエガオ	15 イソカゼガイ
15 バカガイ	23 コヅツガイ	準絶滅危惧（NT）
絶滅危惧 I 類（CR+EN）	24 ハマカゼガイ	1 ツボミ
1 アラウズマキ	25 ユウヒザクラ	2 ツメナリミヤコドリ
2 ハツカネズミガイ	26 トゲウネガイ	3 カシパンヤドリニナ
3 セキモリ	27 アワジチガイ	4 ヒモイカリナマコツマミガイ
4 ウネムシロ	28 フジナミガイ	5 フロガイダマシ
5 オマセムシロ	29 チゴマテガイ	6 キヌタレガイ
6 トウイト	30 オオノガイ	7 マツモトウロコガイ
7 オガイ	絶滅危惧 II 類（VU）	8 ミジンコチョウシャクシ

9 エゾマテガイ

10 チビニオガイ

11 ネムグリガイ

情報不足 (DD)

1 イワカワチグサ

2 ヒメカタベ

3 チグサカニモリ

4 クリンイトカケ

5 クレハガイ

6 イナザワハベガイ

7 ヨフバイ

8 ウスオビフタナシシヤジク

9 フデシヤジク

10 カリガネガイ

11 ナワメグルマ

12 マメウラシマ

13 ウズマキキセワタ

14 カイコガイダマシ

15 カミスジカイコガイダマシ

16 ヨコヤマミミエガイ

17 アワジチヒロ

18 ノムラスエモノガイ

**ミクリガイ 絶滅(EX) EX-②**  
*Siphonalia cassidariaeformis* (Reeve, 1843)  
 新生腹足目 エゾバイ科

環境省: なし  
 広島県 2011: なし  
 広島県 2003: なし

概要	殻高 4 cm 内外で殻は厚い。螺塔はやや小さめで体層が大きい。殻表の肩には結節列がある。殻表には強弱のある螺肋がある。殻口は広く外唇内壁に肋状のヒダがある。水管は強くねじれる。分布域は本州北部から九州。 砂泥, 砂干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の砂地に生息し、産状は「多い」となっている。1970 年代までは各地の潮間帯下部の砂泥, 砂干潟に 1 回で 20 個体くらい食用として採れるほど生息していたが、その後の埋立などの生息場所の減少や環境悪化で急激に減少したようで、1990 年以降は死殻すらまったく確認できない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	確認場所が少ないのはごく普通に生息していたため、確認場所、年月日が正確な標本が少ないため、各地の干潟に多く生息していたと思われる。
産地情報	呉市 (呉, 音戸, 倉橋), 三原市 (三原)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.  
 奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**コナガニシ 絶滅(EX) EX-②**  
*Fusinus ferrugineus* Kuroda & Habe, 1961  
 新生腹足目 イトマキボラ科

環境省: なし  
 広島県 2011: なし  
 広島県 2003: なし

概要	殻高 10 cm 内外。結節が低い。殻表はナガニシより厚いカイメンで覆われ、カイメンの塊から円い殻口だけが見えるような状態のものが多く。その下の殻皮は濃い褐色。水管はナガニシは真っすぐだがコナガニシはやや短めで少し曲がる。分布域は本州北部から九州。 潮間帯下部以深の砂泥干潟にカイメンで全体を覆われ赤茶色の塊で砂泥に埋まらずに転がっているように生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 60 m までの砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 1970 年までは潮間帯下部のアマモ帯に転がって生息しており、春の干潮時には 5~6 個体は確認できたし、鮮魚店でも県内産がかごに盛られてよく販売されていた。その後急激に減少し 1980 年代には潮間帯から確認できなくなり、その後 1990 年にはどこでも確認できない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 音戸, 倉橋, 安浦)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.  
 奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

## ヒメホネガイ 絶滅(EX) EX-②

*Vokesimurex rectirostris* (G. B. Sowerby II, 1841)

新生腹足目 アッキガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高は 6 cm 内外で殻は細長く、殻表には強い縦張肋が肋間に 3 本ある。肩および底部に長い棘がある。分布域は本州中部以南。潮下帯の水深約 30 m の砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、瀬戸内海西部（伊予灘，周防灘，安芸灘）の水深 0～60 m の砂泥地に生息し、産状は「稀」となっている。潮下帯の砂泥地に生息する貝で 1970 年以降 2010 年までまれに 1 個体、底引き網で死殻が揚がってくるが生貝は確認できない。殻の状態が比較的良好な死殻が数個体確認できるが、近年絶滅したと考えられる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	呉市（倉橋，下蒲刈）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

## オウウヨウラク 絶滅(EX) EX-②

*Ocenebra inornatus inornatus* (Recluz, 1851)

新生腹足目 アッキガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 4 cm 内外，殻径 3 cm 内外で紡錘形。厚質堅固で多くは褐色。殻口は卵形。肩で縦肋が棘状に発達し，殻口部部分でひれ状に発達したものや，ないものもある。分布域は北海道南部から九州。潮間帯から水深 20 m くらいの岩礫底に生息。肉食性でカキなど付着性の二枚貝に小さい針でついたような穴を開けて食べるので，カキの養殖には害敵である。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では，瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の岩礁に生息し，産状は「普通」となっている。1970 年には各地で多数確認でき，この頃には新聞にカキを食害する貝としてよく載っていた。1990 年頃イボニシが船底塗料などによる環境汚染により減少していることでこの貝も確認すると，どこにもまったく生息していないし，死殻もないことを確認した。イボニシはこの後復活し現在普通に生息している。1970 年代までは潮間帯中部以深の礫地海岸やカキひびにカキを食害する貝として多数生息していた。それ以降急速に個体数を減らしたようで，1990 年以降死殻すらまったく確認できない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	広島市（南区），呉市（呉，音戸，倉橋，安浦），東広島市（安芸津）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**チリメンボラ 絶滅(EX) EX-②**

*Rapana bezoar* (Linnaeus, 1758)

新生腹足目 アッキガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	アカニシに似るが小型で殻高 10 cm 内外、殻はこぶし型で厚く殻表は鱗状の成長肋が密にあり、肩角上ではひれ状に立ち上がる。殻口は広く白色で、内面にひだを形成。分布域は北海道南部以南。アカニシのように潮間帯下部には生息しておらず、潮下帯の水深 30 m くらいの砂泥底に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。潮下帯の水深 30 m の砂泥地に生息していたようだったが、1973 年を最後に現在まで生貝どころか死殻すら確認できない。同属のアカニシは 1990 年後半から潮間帯下部での生息の確認が増えている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	呉市（呉，下蒲刈，蒲刈）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ツノオリレガイ 絶滅(EX) EX-②**

*Boreotrophon candelabrum* (Reeve, 1847)

新生腹足目 アッキガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 3 cm 内外で細長く、殻表には板状の縦肋があり、とくに肩では強く立ち上がる。分布域は本州中部以北。潮下帯の水深 30 m くらいの砂礫から砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、伊予灘（別府湾）の水深 0~60 m の岩礁に生息し、産状は「少ない」となっている。確認できたのも伊予灘に接する安芸灘であり、過去にはわずかながらも生息していたが環境変化で絶滅したものと思われる。本来、本州中部以北に分布域があり、外洋では生息できない環境になった後も、瀬戸内海という低海水温環境などによりわずかに生き残っていた種類と思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	死殻 1 個体のみでの採集ではあるが、北方系種が存在していたということで記載した。
産地情報	呉市（蒲刈）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**フデガイ 絶滅(EX) EX-③**

*Mitra inquinata* Reeve, 1844

新生腹足目 フデガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 6 cm 内外で殻は厚く、ととのった筆先状。殻表は、縦溝と横溝で濃褐色の碁盤目状になる。殻口の内面は白い。分布域は本州中部以南。潮間帯下部から水深 50 m に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の砂泥地に生息し、産状は「少ない」となっている。潮下帯の水深 30 m の砂泥地に生息していたようで、1970 年から古い死殻はまれに採れており、1991 年蒲刈沖の底引き漁で殻表に艶の残る新鮮な死殻が 1 個体確認され、生貝の期待があったが、それ以降も古い死殻がまれに確認されるのみで、近頃はそれもなくなっている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	呉市（倉橋，下蒲刈，蒲刈），三原市（三原）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**リュウグウボタル 絶滅(EX) EX-②**

*Amalda rubiginosa* (Swainson, 1872)

新生腹足目 ホタルガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 5 cm 内外で殻は厚く紡錘形。殻頂は丸みがあり、白い滑層で覆われ、体層は大きく、その縫合下に濃褐色の螺状帯がある。殻口は広い。軟体は大きく、上足部で殻の表面を覆う。分布域は本州中部から九州。潮下帯の水深 30 m くらいの砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、周防灘、伊予灘、牛窓、有竜島の水深 50~120 m の砂泥地に生息し、産状は「稀」となっている。1973 年に蒲刈沖の水深約 30 m で生貝の幼貝を 1 個体確認したが、その後はこの場所を含めて各地の底引き網で古い死殻はまれに確認できるが生貝はまったく確認できない。環境変化などにより絶滅したものと思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	呉市（呉，倉橋，下蒲刈，蒲刈）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

クダマキガイ 絶滅(EX) EX-②

*Lophiotoma leucotropis* (A. Adams & Reeve, 1850)

新生腹足目 クダマキガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 5 cm 内外で殻は細長い。殻は褐色。肩に太く強い螺肋があり、螺肋は平滑、螺肋の間には細い成長脈がある。殻口外唇に切れ込みがある。分布域は本州中部以南。 潮下帯の水深約 30 m の細砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、瀬戸内海東部、安芸灘、伊予灘の水深 50~120 m の砂泥地に生息し、産状は「少ない」となっている。 1973 年までは蒲刈、下蒲刈沖では底引き網漁で 1 回の底引き網で生貝が 50 個体以上確認できるほど多量に生息していたが、その後急速に減少したようで、1990 年以降に以前多産した場所の底引き網漁を行っても、古くすれた死殻をまれに確認できるくらいで生貝はまったく確認できない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	呉市（呉、倉橋、下蒲刈、蒲刈）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

イシカゲガイ 絶滅(EX) EX-②

*Clinocardium buellowi* (Rolle, 1896)

マルスダレガイ目 ザルガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 5 cm 内外で殻は厚く前後に少し長い卵型。殻はよく膨れる。殻表には 35 本前後の放射肋がある。 分布域は本州北部から九州。 水深約 30 m の砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、瀬戸内海の内区（備後灘、燧灘、水島灘等）、安芸灘、伊予灘、淡路、大阪湾の水深 0~60 m の砂泥地に生息し、産状は「稀」となっている。 広島県でも水深約 30 m の砂泥地にごく少数生息したようで、1970 年から 1973 年に確認して以降、生貝、死殻とも確認できないことから、その後の環境変化などで絶滅したものと思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	呉市（倉橋、下蒲刈、蒲刈）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

シラオガイ 絶滅(EX) EX-②

*Circe scripta* (Linnaeus, 1758)

マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 5 cm 内外で丸みを帯びた卵型、殻は厚いが膨らみは少ない。殻表には強い輪肋が多くある。分布域は本州中部以南。 潮間帯下部の砂泥干潟のアマモ帯に殻を完全に露出して生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂地に生息し、産状は「多い」となっている。 潮間帯下部の砂泥干潟のアマモ帯に殻を完全に露出して生息していた。1970 年でも個体数は少なく 1 回の観察で 1~2 個体くらいであったが、各地のアマモの生えている干潟で生息を確認できた。その後、埋め立てや生息環境の悪化などで急激に個体数が減少、1990 年頃には死殻すらまったく確認できなくなった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	この貝は殻が厚くて硬いため、この殻を使って薪炊きのとき釜や鍋の底についた煤を落とす道具として、金属たわしのように使うために時々持って帰っていたと明治生まれの人から聞いた。それで大正初期から個体数は少ないが継続して広島県内で生息し、道具として使っていたことがわかった。
産地情報	呉市（呉、音戸、倉橋、安浦）、尾道市（尾道）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

ハマグリ 絶滅(EX) EX-②

*Meretrix lusoria* (Roding, 1798)

マルスダレガイ目 マルスダレガイ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 7 cm 内外で後端が尖った亜三角形の形をしている。殻はやや薄く膨らむ。殻表は平滑で艶がある。分布域は北海道南部から九州。 潮間帯下部の砂泥干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂地に生息し、産状は「普通」となっている。 1970 年に倉橋島の 1 か所で 1 個体確認したのみでそれ以降確認できないが、1950 年代には広島市太田川、呉市黒瀬川の各河口において生息していたのは、貝類同好者の聞き取りにより確認している。生息域の環境悪化により絶滅したと思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	呉市（倉橋）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)



## イチョウシラトリ 絶滅(EX) EX

*Pistris diaphana* (Deshayes, 1855)

マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 4 cm 内外で三角形で膨らみは弱く、殻表には板状の成長肋が密にある。殻内面は白色。後縁は直線的で殻頂から稜角がある。分布域は北海道南部以南。潮間帯中部以深の泥地干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂泥地に生息し、産状は「少ない」となっている。 広島県では 1976 年に江田島湾奥の泥干潟で 1 個体確認できたが、以後泥干潟が減少したこともあり、まったく確認できず絶滅したと思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	江田島市（江田島）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

## アオサギガイ 絶滅(EX) EX-③

*Psammotreta praerupta* (Salisbury, 1934)

マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 5 cm 内外で、殻は長い卵形で膨らみは弱く扁平、殻は薄く、白色で殻頂部はやや青みを帯びる。後背縁は短く直線的。殻頂は前方に寄る。分布域は本州中部以南。潮下帯の水深 30 m 付近の砂泥地に生息する。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 1970 年から潮間帯干潟では死殻もまったく確認できず、底引き網漁でも生貝はもとより死殻も半片がわずかに確認できるだけで、両殻揃ったものは 1990 年に 1 回、殻皮が残ったものが確認できたのみで、それ以降死殻半片すらまったく確認できない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	—
産地情報	呉市（呉, 蒲刈）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**バカガイ 絶滅(EX) EX-②**

*Mactra chinensis* Philippi, 1846

マルスダレガイ目 バカガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 8 cm 内外で殻は亜三角形で薄く、ふくらむ。殻表は平滑であるが、腹縁付近は成長線が太い肋になっている。内面は白色。分布域は本州から九州。潮間帯下部の砂泥干潟に多く生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」では、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂地に生息し、産状は「普通」となっている。 1970 年頃までは沿岸各地に砂泥干潟が普通にあり生息していたが、海岸が埋め立てられていき 1980 年頃には島嶼部にわずかに残るくらいになった。とくに細かいきれいな砂干潟は少ない。埋め立てと水質悪化が重なったためか普通に生息していたのに 1970 年頃を最後に絶滅したと思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	産地情報が少ないのは、普通に生息していたため生息年月日が確定できる標本が少ないためである。
産地情報	呉市 (呉, 音戸, 倉橋)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**アラウズマキ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②**

*Pygmaerota duplicata* (Lischke, 1872)

新生腹足目 イソコハクガイ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 4 mm 内外のほぼ平巻の貝で、殻は厚く、体層部は 2 本の肋が融合し強く角張っている。分布域は本州中部から九州。潮通しのよい潮間帯下部の転石干潟の半ば埋もれた石裏に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂礫地に生息し、産状は「多い」となっている。 1970 年には石裏に 5~6 個体集まって多く生息しているような場所もあったが、2000 年になると食用貝の捕獲等による転石の掘り起こしなど生息環境の悪化が進み、貝の生息している石がごく少なくなり、また生息数も 1~2 個体と激減した。
存在を脅かす要因・保全の留意点	半ば埋まった礫裏という特殊な環境に生息しており、転石が起こされそのままにされると死滅してしまうため、海岸への立ち入り制限が必要と思われる。
特記事項	同じような環境にいるシラギクに比べ、環境変化に弱いようで一度石が起こされるとそこには生息しなくなり、著しく個体数が減少している。死殻は海岸や海砂内に多いが、生貝が生息している場所は少ない。
産地情報	呉市 (呉, 音戸, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈, 川尻, 豊浜), 竹原市, 三原市 (三原), 尾道市 (因島), 東広島市 (安芸津), 江田島市 (大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ハツカネズミガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②**

*Macromphalus tornatilis* (Gould, 1859)

新生腹足目 シロネズミガイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>殻高 5 mm 内外で殻は厚く、殻表には 8 本内外の螺肋がある。礫地に生息するユムシ類と共生、または寄生している。分布域は本州中部から九州。</p> <p>潮間帯下部の転石干潟に生息しているユムシ類の棲管が埋まった石に接する部分に付着し、共生または寄生している。このユムシ類は砂泥干潟にも生息しているが、埋まった礫がないとハツカネズミガイは生息していないし、この場所にいるユムシ類でもハツカネズミガイが確認できるのはユムシの棲管 10 か所のうち 1 か所くらいの割合で少ない。</p>
生息・生育状況	<p>「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。</p> <p>この貝の死殻は各地で見られるが、生貝は礫のある砂泥地に生息するユムシ類というかなり特殊な環境に生息しているため確認できる生息地は少ない。またユムシ類の棲管にいる個体数も幼貝は 5~6 個体くらいの複数で見られることがあるが、成貝は 1~2 個体での確認が多く、近年成貝の確認が少なくなっている。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>転石海岸で釣り餌の採取と思われる礫が広範囲に掘り起こされている場所が多く、そのうえ砂泥の流入などユムシ類を含む生物の生息環境が悪化している。海岸への立ち入り規制も必要と思われる。</p>
特記事項	—
産地情報	呉市（呉，倉橋，下蒲刈），竹原市，三原市（三原），尾道市（因島）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会，広島。

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部，神奈川。

(濱村陽一)

**セキモリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②**

*Epitonium robillardi* (G. B. Sowerby III, 1894)

新生腹足目 イトカケガイ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>殻高 1.5 cm 内外。螺層は丸みがあり細い縦肋は密でやや強く規則的にある。殻表には 1~2 本の褐色帯がある。分布域は本州中部以南。</p> <p>潮間帯下部の砂泥干潟に生息。</p>
生息・生育状況	<p>「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。</p> <p>1976 年からの調査で、数年に 1 回生貝の成貝を 1 個体確認できるくらい少ない。とくに 1990 年以降生貝でも幼貝しか確認できず、わずかに生存しているようだが、生息環境が悪化していることから絶滅する可能性も大きい。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>砂泥の流入，人的な海岸の攪乱等による海岸の荒廃を防ぐ必要がある。</p>
特記事項	—
産地情報	呉市（呉，倉橋，下蒲刈，豊浜），三原市（三原）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会，広島。

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部，神奈川。

(濱村陽一)

**ウネムシロ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②**

*Nassarius (Hima) hiradoensis* (Pilsbry, 1904)

新生腹足目 ムシロガイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 1.5 cm 内外。殻表には太い縦肋があり、殻は黄土色で茶褐色の螺状帯がある。分布域は本州中部以南。潮間帯下部の砂泥干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の岩礫地に生息し、産状は「普通」となっている。潮間帯下部の砂泥干潟に生息しており、1975 年に倉橋町で 20 個体以上確認したが、その後埋め立て、水質汚濁等により個体数が急速に減少、現在、生貝、死殻ともまったく確認できない。2010 年、厳島神社北側の干潟では 1 時間の観察で 5 個体の死殻を確認、わずかであるが生息している可能性があると思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	埋め立て等による干潟の減少、海への砂泥の流入により生息環境の悪化している海岸が多く、急速に個体数が減少、絶滅している可能性もある。
特記事項	—
産地情報	呉市（倉橋）、廿日市市（宮島）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**オマセムシロ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①**

*Nassarius (Hima) praematurus* (Kuroda & Habe, 1960)

新生腹足目 ムシロガイ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 5 mm 内外で殻は薄い。螺塔上部は顆粒状になるが、体層はほぼ平滑で半透明。分布域は本州西部・瀬戸内海・九州。潮間帯下部の砂泥地干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、備後灘、燧灘の水深 0~30 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。潮間帯下部の泥の多い砂泥地干潟に生息している。2006 年から呉市の 1 か所のアマモの生えている砂泥干潟で現在まで継続して生息しているのは確認しているが、個体数は 1 回の調査で生貝 1~2 個体くらいとごく少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	埋め立て、山からの砂泥の流入などで生息環境悪化があれば絶滅の可能性はある。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**トウイト 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①**

*Siphonalia fusoides* (Reeve, 1846)

新生腹足目 エゾバイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 5 cm 内外で紡錘形。殻はミクリガイに似るが細い螺肋のみで、肩の結節はない。分布域は本州北部から九州。 潮下帯の水深約 30 m の砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の砂地に生息し、産状は「普通」となっている。 1970 年までは各地の底引き網漁 1 回で生貝 5 個体は確認できていたが、その後急激に減少し、2010 年頃までは生貝は確認できず、死殻をわずかに確認できるくらいであった。2011 年に生貝の幼貝 1 個体、2012 年に生貝の成貝 1 個体を倉橋島沖の底引き網漁で確認、ごくわずかであるが生息しているのを確認できた。
存在を脅かす要因・保全の留意点	2011、2012 年に生貝を確認したが、ごく少数であり、砂泥の流入など生息環境が悪化しているため絶滅する可能性は大きい。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈), 三原市 (三原)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**オガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-⑤**

*Cantharus cecillei* (Philippi, 1844)

新生腹足目 エゾバイ科

環境省: EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 3 cm 内外で殻は厚く太い縦肋があり、殻表はピロード状の殻皮に覆われる。分布域は本州中部以南。 潮間帯下部の転石干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の岩礫地に生息し、産状は「多い」となっている。 潮間帯下部の転石干潟に生息し、1973 年までは各地の干潟で 1 回の観察で 5~6 個体は確認できたが、それ以降急激に減少しまったく確認できなくなった。2010 年、呉市で近年まで生きていたと思える死殻を 1 個体確認した。瀬戸内海西部で復活がみられることから広島県でも可能性はあると思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	有機スズによる減少の可能性も言われていた。そのうえ災害などによる海岸への砂泥の流入などにより生息環境が悪化している。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 音戸), 竹原市, 尾道市 (向島)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**テングニシ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①**

*Hemifusus tuba* (Gmelin, 1781)

新生腹足目 テングニシ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 14 cm 内外。殻本体はやや丸く細く紡錘状。結節は低い。殻本体は肌色状で殻表はビロード状の殻皮で覆われる。分布域は本州中部以南。 潮下帯水深 30 m までの砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 1970 年までは鮮魚店でトロ箱に入れられて量り売りされるほど採れていた。その後急速に減少し、1990 年には死殻すら確認できないため絶滅したと思われたが、2009 年呉市倉橋町沖の底引き漁で 2 個体生貝の成貝が採れ、ごく少ないながら生息しているのが確認された。
存在を脅かす要因・保全の留意点	海への砂泥の流入など生息環境が悪化しているため、個体数が極端に減少しているこの種は絶滅する可能性が大きい。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 音戸, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ヒラドサンゴヤドリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②**

*Coralliophila jeffreysii* E. A. Smith, 1879

新生腹足目 アッキガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 1.5 cm 内外で紡錘形。殻表には鱗片状の太い螺肋が密にある。分布域は本州中部以南。 潮間帯下部から水深 50 m の岩礁, 転石海岸のイシサンゴ類に寄生。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、備讃瀬戸東部, 備前海域, 備後灘, 燧灘, 伊予灘の水深 0~60 m のヤギ目, イシサンゴ目に外部寄生し、産状は「少ない」となっている。 2007 年以降に潮間帯で確認した個体は 2 個体と少なく、2010 年以降は確認できない。また 2006 年に水深 50 m 付近の刺し網漁で揚がった礫に付着していたと思われる個体数も 2 個体と少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	確認できる個体数がごく少ないため、潮間帯では人為的な海岸岩石攪乱が大きく、海岸への立入制限が必要と思われ、また海への砂泥の流入が、潮間帯, 潮下帯のサンゴ類の生息環境悪化になっている可能性が大きいと思われる。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈), 三原市 (三原)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**コロモガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①**

*Sydaphera spengleriana* (Deshayes, 1839)

新生腹足目 コロモガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 5 cm 内外で殻は厚い。縦肋は太く肩で尖り、螺肋は細かく密になる。分布域は北海道南部から九州。潮間帯下部以深の砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の砂泥地に生息し、産状は「少ない」となっている。 潮間帯下部から潮下帯の砂泥地に生息し、1970 年頃までは潮間帯でも 1 回の観察で生貝を 1~2 個体は確認できたが、その後急速に減少し、1990 年頃からは潮間帯ではまったく確認できなくなった。潮下帯では底引き網漁で死殻は毎年 2~3 個体、生貝は数年に 1 個体くらい確認できる。水深約 30 m の底引き網漁でも生貝の確認はごく少ない。底引き網漁で採れる同じ科のコンゴウボラは今でも生貝を複数確認できる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生貝が潮間帯では見られなくなり、底引き網漁でも確認がごくわずかになっており、生息環境が悪化していることから絶滅する可能性も大きい。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 音戸, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈), 竹原市, 三原市 (三原), 尾道市 (向島)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**タマノミドリガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②**

*Tamanovalva limax* Kawaguti & Baba, 1959

汎有肺目 タマノミドリガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 5 mm 内外で殻は二枚貝状。殻は黄緑から緑色をしている。分布域は瀬戸内海と和歌山県。潮間帯下部の岩礁に付着する海藻であるフサイワヅタ類に着生する。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海内区 (備後灘, 水島灘, 備前海等), 安芸灘の水深 0~30 m の海藻上 (フサイワヅタ) に生息し、産状は「普通」となっている。 1980 年から潮間帯下部で生貝を確認しており、年により 10 個体以上、または 2~3 個体と増減していたが 2010 年までは継続して確認できた。2010 年以降岩礁上のイワヅタ類が急激に減少し、それにともない数年に 1 個体くらいしか生貝を確認できない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	潮間帯のイワヅタ類の生息環境が悪化し、このまま減少していき消滅すれば同じように潮間帯からタマノミドリガイも絶滅するだろう。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 下蒲刈), 尾道市 (向島)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**イソチドリ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①**

*Amathina tricarinata* (Linnaeus, 1767)

汎有肺目 イソチドリ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻径 1 cm 内外で殻は傘型でやや厚い。殻表には厚い殻皮があり、3本の太い螺肋がある。分布域は本州中部以南。 水深約 0~30 m くらいまでに生息するイタボガキやタイラギの殻表に付着（寄生）する。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~30 m の殻上（タイラギ属、イタボガキ属、他）に寄生し、産状は「普通」となっている。 1994年にイガイへの寄生を 10 個体確認してから、2010 年以降は底引き網漁でイタヤガイ、マガキ、ハボウキガイ、ニシキガイに各 1 個体ずつ、潮間帯中部ケガキに 1 個体寄生しているのを確認でき、徐々に個体数が復活していると思われるが、確認はまだ数年に 1 個体くらいで少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	わずかだが個体数は復活しているが、海への砂泥の流入などで生息環境が悪化しており、再度減少、絶滅する可能性は大きい。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉、音戸、倉橋、下蒲刈）、竹原市、三原市（三原）、江田島市（江田島、大柿）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**アサヒキヌタレガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①**

*Pseudacharax japonica* (Dunker, 1882)

キヌタレガイ目 キヌタレガイ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 1 cm 内外で殻は薄く殻表は艶があり、茶色の放射肋がある。キヌタレガイに似るが細長く、靱帯が外在する。生息域は北海道南部から九州。 キヌタレガイに比べて個体数がごく少ない。またキヌタレガイは泥が多い場所に生息するが、アサヒキヌタレガイは砂が多い場所に生息する。ともに潮間帯から水深 20 m くらいに生息する。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海内区（備後灘、燧灘、水島灘等）、安芸灘、伊予灘（国東半島）の水深 0~30 m の砂地に生息し、産状は「少ない」となっている。 潮間帯下部の砂泥地に生息するが、キヌタレガイに比べて個体数がごく少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息場所の細かい砂が多い砂泥干潟という場所が少ないこと、また海への砂泥の流入等により生息環境が悪化しており、今後絶滅する可能性もある。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉）、竹原市

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)



**シコロエガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②**

*Porterius dalli* (E. A. Smith, 1885)

フネガイ目 シコロエガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 5 cm 内外で殻は細長い楕円形。殻表は厚い殻皮が栓皮茸状になった鱗片になっている。分布域は北海道南部から九州。 潮通しのよい潮間帯下部の転石干潟の石裏に付着して生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海外区の東区（大阪湾、播磨灘、淡路）、西区（伊予灘、周防灘、安芸灘）等の潮間帯下部から水深 30 m の岩礫地に生息し、産状は「少ない」となっている。 2000 年までは倉橋島先端部分付近でまれに 1 個体確認できるだけだった。2005 年以降は潮通しのよい転石干潟で 1 回の観察で 5~6 個体、また大型個体も確認できるようになったが、2010 年以降個体数が減少傾向にある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	砂泥の海への流入など生息環境が悪化しているのと、人による海岸の生物乱獲などによりさらに転石海岸は環境が悪化しているため、立ち入り制限が必要と思われる。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉、倉橋、下蒲刈、蒲刈）、東広島市（安芸津）、江田島市（大柿）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ナギサマメシラスナガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②**

*Nipponolimopsis littoralis* Sasaki & Haga, 2007

フネガイ目 シラスナガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 2 mm 内外でやや細長い卵型、殻は小さいがやや厚い。殻表には輪状になって見える厚い殻皮がある。分布域は茨城県から伊豆半島、瀬戸内海西部。 潮間帯中部から下部の荒い砂干潟にある大きめの半ば埋もれた転石裏に付着して生息。 この貝は以前から瀬戸内海西部で確認され、シラスナガイ科の不明種となっていた貝と思われる。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」には未記載種である。 以前より死殻はまれに瀬戸内海西部の各地で確認されていたが、名称不明の貝であった。2004 年下蒲刈の海岸の半ば埋もれた転石裏に付着して生息している 20 数個体の生貝を確認。それ以降現在までごく狭い範囲であるが、同じくらいの個体数の生息を確認している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息地が現在 1 か所でごく狭い範囲のため、砂泥の流入、護岸工事などにより絶滅する可能性が大きい。
特記事項	—
産地情報	呉市（下蒲刈）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**イタボガキ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①**

*Ostrea denselamellosa* Lischke, 1869

ウグイスガイ目 イタボガキ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 8 cm 内外で曲がった楕円形。右殻表面は椀皮茸状になっており殻縁に耳状の突出部がある。分布域は本州中部から九州。潮下帯の岩礫に着生し生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の砂礫地に生息し、産状は「多い」となっている。 1970 年ころまではマガキと一緒に多く着生していたが、その後急速に個体数が減少し生貝はまったく確認できなくなった。2006 年呉市の島嶼部の刺し網漁にかかった生貝 2 個体を確認、漁業関係者によるとそれまでもごく少数であるが採れていたと証言を得て、現在も継続してごくわずかだが生息していると思われる。なお産地情報が少ないのは、普通に見られたため。
存在を脅かす要因・保全の留意点	現在生息が確認できるのは 1 か所の海域のみで個体数もごく少数であり、砂泥の流入などの生息環境悪化でさらに個体数が減少すれば絶滅する可能性は大きい。
特記事項	—
産地情報	呉市（音戸、倉橋）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**サザナミガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②**

*Lyonsia ventricosa* Gould, 1861

異靱帯目 サザナミガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 2 cm 内外で殻はごく薄く長卵型、後方はくちばし状になる。殻表は薄く半透明で艶があるが殻表全面に砂泥が付着する。死殻ではほとんど脱落する。分布域は北海道南部から九州。潮間帯下部の砂泥干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海内区（備後灘、燧灘、水島灘等）、西区（伊予灘、安芸灘、周防灘）の水深 0~250 m の砂地に生息し、産状は「普通」となっている。 1976 年に呉市で死殻を 1 個体確認後、2000 年に因島で生貝を初めて 1 個体確認、その後 1 個体ずつと少ないが他地域で生貝、死殻を確認しているが、確認が数年に 1 個体と生息数はごく少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	食用貝の採取などによる干潟の砂泥の攪乱、砂泥の流入等生息環境の悪化は、もともと個体数が少ないことと殻のごく薄いことから絶滅する可能性が大きい。
特記事項	「瀬戸内海の貝類」によれば、水深の深い場所にも生息するようで、潮間帯下部は生息範囲の上限のため少ないのかもしれないが、倉橋、蒲刈、江田島周辺の底引き網漁で生貝、死殻とも確認がまったくできなかったことで、深い場所まで生息しているのか疑問である。
産地情報	呉市（呉、倉橋）、尾道市（因島）、江田島市（大柿）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

イセシラガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①

*Anodontia stearnsiana* Oyama, 1954

マルスダレガイ目 ツキガイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 6 cm 内外で、殻は丸く薄いがよく膨らみ艶はない。殻表には薄い黄褐色殻皮がある。分布域は本州北部から沖縄。 潮間帯下部以深の泥地に生息し、深く潜っている。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂泥地に生息し、産状は「少ない」となっている。 潮間帯下部の泥地に 20 cm 以上深く潜って生息しており、生貝は呉市の 1 か所の泥地干潟で 2 cm 以下の幼貝が 1 回の観察で 1~2 個体確認できるだけであり、2010 年以降は確認できる回数、個体数が著しく減少し、数年に 1 回くらいしか確認できない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	海への砂泥の流入等により干潟の生息環境が悪化しており、少ない生息数が今以上減少すると干潟では絶滅する可能性も大きい。
特記事項	死殻半片は各地の泥干潟、底引き網漁で確認できるが、生貝は呉市の 1 か所の泥干潟で確認できるのみであり、ここも殻長 2 cm くらいの幼貝までの確認である。
産地情報	呉市 (呉, 音戸, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈), 竹原市, 三原市 (三原), 江田島市 (江田島)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

コフジガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①

*Squillaconcha subsinuata* (Lischke, 1871)

マルスダレガイ目 チリハギガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 1 cm 内外で殻は三角形で薄くふくらみは弱い。殻表は平滑で弱い成長線がある。靱帯は外在し、後側歯の後方にある腹縁部はややへこみ、ここから足糸を出して潮間帯下部から潮下帯に生息するシャコ類の腹部に付着する。淡褐色の殻皮がある。分布域は本州中部から九州。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~60 m のシャコに外部寄生するようになっており、産状は「普通」となっている。 潮下帯から水深約 30 m の砂泥地に生息するシャコ類の腹面に寄生しており、1970 年代にはシャコ類 100 個体に 1 個体くらいの割合で寄生し、1 日でやっと 5 個体ほど確認できるくらいであったが、その後シャコ類が著しく減少し、2000 年頃からは数年に 1 個体くらいとごく少数しか確認できない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	寄主の減少と小型化でこの貝も以前から少なかったのがきわめて少なくなっている。海への砂泥の流入など寄主のシャコ類の生息環境が悪化しているため、このままでは絶滅する可能性が大きい。
特記事項	シャコ類が減少し、2000 年頃には 1 日の網入れ 5 回で約 50 個体と 1970 年頃の 1 割弱の個体数になっており、そのうえ、半分以下の体長の小型の個体ばかりになっていた。そのためか寄生するコフジガイも小型になっている。
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈, 豊浜), 竹原市, 三原市 (三原)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**フジタニコハクノツユ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②**

*Fronsella fujitaniana* (Yokoyama, 1927)

マルスダレガイ目 ブンブクヤドリガイ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>殻長 1 cm 内外で殻は膨らみ前部が長い長楕円形で薄い。殻表は白く艶がある。分布域は本州北部から九州。</p> <p>潮間帯下部の砂泥干潟の表面付近に潜っているオカメブンブクの肛門付近に生息しており、何らかの関係を持っていると思われる。</p> <p>潮間帯の干潟のオカメブンブクが少ないため、この貝はそれ以上に少ない。</p>
生息・生育状況	<p>「瀬戸内海の貝類」には未記載の種であるが、2 か所の干潟で確認している。オカメブンブクが動いた際にできる肛門付近と砂泥との間にできた空間に生息しており、寄生など何らかの関係があると思われるが現在は不明。ただし、愛媛県の瀬戸内海側島嶼部での観察ではオカメブンブクの肛門付近にフジタニコハクノツユの幼貝が着生しているのを確認している。成貝になるとオカメブンブクから離れて生活するのかもしれない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>海への砂泥流入など生息環境悪化はこの貝の減少要因として大きい。それと一緒にオカメブンブクの減少もこの貝の減少要因として大きい。</p>
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉), 江田島市 (大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ヒナノズキン 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②**

*Devonia semperi* (Ohshima, 1930)

マルスダレガイ目 ブンブクヤドリガイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	<p>殻長 1 cm 内外で殻は透明でごく薄く腹縁が丸い亜三角形。殻は外套膜で覆われており外からは見えにくい。分布域は九州・瀬戸内海。</p> <p>潮間帯下部の砂泥干潟の表面から約 20 cm の深さに生息するトゲイカリナマコに外部寄生する。足先は平たく開いてトゲイカリナマコに強く吸着しており、ナマコを多少引っ張って掘り出しても外れることはない。しかし、このナマコが死ぬと即座に同じ容器内の生きたナマコに移動することから、ナマコから何か生きていることの情報を得ていると思われる。</p>
生息・生育状況	<p>「瀬戸内海の貝類」には未記載種である。</p> <p>現在確認できる場所が 2 か所のみで、その場所でもトゲイカリナマコが干潟に少ないこと、寄生しているトゲイカリナマコは 10 個体に 1 個体くらいと少ないうえに、寄生しているのもほとんど 1 個体と少ない。</p>
存在を脅かす要因・保全の留意点	<p>自然災害や人為的土砂の流入により、以前、ヒナノズキンが確認できた砂泥干潟に細かい泥が流入するとトゲイカリナマコの棲管内にうすく付着していることがある。生きたトゲイカリナマコを 20 個体くらい確認したが、ヒナノズキンが寄生しているものは確認できなかった。環境の急激な変化にはごく弱いと思われる。</p>
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉), 竹原市

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**オキナノエガオ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②**

*Platomysia rugata* Habe, 1951

マルスダレガイ目 ガンツキ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 1 cm 内外で殻は楕円形で薄くきわめて扁平である。殻表には同心円肋が規則的にある。分布域は、本州中部以南から九州。砂泥地に生息するスジホシムシの表面に寄生する。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、大阪湾の水深 0～60 m の砂泥地に生息し、産状は「少ない」となっている。スジホシムシに外部寄生し、10 個体に 1 個体くらいの割合で寄生していた。砂泥地のスジホシムシは 1 回の観察で 5 個体以下しか確認できないため、数年に 1 個体の確認でしかない。透明の粘液のようなもので緩く付着しているため外れやすいのか、ほとんどは外れて棲管内で一緒に確認された。
存在を脅かす要因・保全の留意点	砂泥地に深く潜って生息するスジホシムシに寄生するため、なかなか生息を確認できない。そのため砂泥地の攪乱や土砂の流入などの環境変化には寄主と一緒に弱いと考えられるため、知られないうちに絶滅していく場所も多いと思われる。
特記事項	—
産地情報	竹原市

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**コヅツガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②**

*Eufistulana grandis* (Deshayes, 1855)

マルスダレガイ目 ツクエガイ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長は 3 cm 内外で殻は細長く、石灰質の棍棒状の棲管を作りその中に生息する。分布域は本州中部以南。潮通しのよい潮下帯の礫のある砂泥地に生息するが、沖縄本島のように潮間帯に生息することはなく、沖縄以外の本州全体でも生貝の確認記録はごく少ないと思われる。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、備後灘、水島灘等の水深 0～60 m の砂泥地に生息しており、産状は「稀」となっているが「絶滅?」となっており、生貝は確認できなかったと思われる。これまでに本種が確認できたのは、呉市倉橋町の 1 か所のみである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	海岸への砂泥の流入など生息環境が悪化している。
特記事項	生息を確認する方法が底引き網漁しかなく、潮間帯のように継続して確認できない。現在、生息環境が悪化していることなどから、確認できないうちに絶滅している可能性も大きい。
産地情報	呉市 (呉, 音戸, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈, 豊浜), 三原市 (三原)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ハマカゼガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②**

*Paramya reclusi* (A. Adams, 1864)

マルスダレガイ目 イソカゼガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 1 cm 内外で殻は薄く四角形。殻頂が前方に寄り、後方は高くなる。分布域は本州中部から九州。潮間帯下部の砂泥干潟に生息するユムシ類の棲管に接して生息するが、同じ環境に生息するイソカゼガイに比べ生息数は著しく少ない。 死殻の確認数でもイソカゼガイは多いが、ハマカゼガイは少ない。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海の周防灘、安芸灘を除く全域の水深 0~30 m の礫砂泥地に生息し、産状は「少ない」となっている。 ほぼ同じ生息環境にいるイソカゼガイはユムシ類の棲管 5 個に 1~2 個体は確認できるが、ハマカゼガイは現在まで礫地に生息するユムシ類の棲管で確認できず、砂泥地のユムシ類でも数年に 1~2 個体の確認とごく少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	近年海へ砂泥の流入、人による干潟の攪乱が多くユムシ類、ハマカゼガイの生息環境が悪化しており、絶滅する可能性が大きい。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 下蒲刈), 竹原市, 三原市 (三原)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

Goto R., Ishikawa H. & Hamamura Y. 2017. The enigmatic bivalve genus *Paramya* (Myoidea: Myidae): symbiotic association of an East Asian species with spoon worms (Echiura) and its transfer to the family Basterotiidae (Galeommatoidea). *Journal of the Marine*

(濱村陽一)

**ユウヒザクラ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②**

*Pistris subtruncata* (Hanley, 1844)

マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 3 cm 内外で殻表には板状の成長肋が密に並び、後背縁は短く丸い。分布域は北海道北部以南。潮通しのよい潮間帯下部の荒目の砂干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海外区 (播磨灘, 淡路, 伊予灘, 安芸灘等) で産状は「普通」、内区 (備讃瀬戸, 備後灘等) で産状は「少ない」となっており、生息場所は水深 0~120 m の砂地となっている。 現在 1 か所で生貝を確認したのみで、そのうえ生貝は数年に 1 個体確認できるくらいで、2003 年に確認してから 2010 年までで 4 回、生貝を各 1 個体ずつ確認できたのみである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	近年食用貝の採取が多く、干潟の砂の攪乱がひどくなっている。そのうえ潮通しがよいためか砂の堆積が多く見受けられ生息環境が悪化している。
特記事項	—
産地情報	江田島市 (大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**トゲウネガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②**

*Quadrans parvitas* Iredale, 1931

マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 1 cm 内外で殻表には規則的な輪肋があり、後背縁は直線状で 3 本の棘列がある。分布域は本州中部以南。 潮間帯下部の砂干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0～60 m の砂地に生息し、産状は「普通」となっているが、底引き網漁で揚がってきたことはない。 広島県のみでなく、瀬戸内海でも生貝、死殻ともに確認できる個体は少なく、生貝も少ないと思われる。広島県で生貝が確認できる干潟は 1 か所のみであり、ここも幼貝の確認は 10 個体くらいできるときもあるが、成貝は 2～3 年に 1～2 個体くらいである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	現在、生貝が確認できる干潟が 1 か所のみであるため、土砂の流入などによる生息環境悪化により絶滅する可能性が大きい。
特記事項	—
産地情報	三原市 (三原), 大竹市, 江田島市 (大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**アワジチガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-⑤**

*Macoma awajiensis* (G. B. Sowerby III, 1914)

マルスダレガイ目 ニッコウガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 3 cm 内外で長楕円形。殻の膨らみは強く薄い。殻頂は後方に寄り、後端は尖る。分布域は本州中部から九州。 潮下帯の水深約 30 m の砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0～30 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 潮下帯水深約 30 m の砂泥地の底引き網漁で、1970 年以降 2010 年まで、死殻半片は 1 回の底引き網漁で 1～2 片と少数ではあるが確認でき、またその中には殻皮があるものもわずかに確認できていた。現在は半片すらまったく確認できない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	—
特記事項	生貝は確認できていないものの、殻皮が残っている半片が確認できなくなってまだ 10 年ということで、絶滅危惧 I 類と評価した。
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**フジナミガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①, CR+EN-②**

*Soletellina boeddinghausi* Lischke, 1870

マルスダレガイ目 シオサザナミ科

環 境 省: CR+EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概 要	殻長 10 cm 内外で殻は薄く楕円形。殻頂から腹部に白い線があり、茶色の殻皮が全体にある。分布域は本州中部から九州。 潮間帯下部以深の砂地に 30 cm 以上潜って生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮下帯下部から水深 30 m の砂地に生息し、産状は「少ない」となっている。 生貝が確認できる干潟は 1 か所のみで、生息場所は狭い範囲のうえ、食用のため採取する人もおり、確認できない年もあるが、2000 年以降 2015 年まで生貝を確認している。付近の底引き網漁で両殻揃った死殻も確認できることから、潮下帯から幼生の補給があるため干潟での生息が可能になっていると思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	潮間帯での捕獲圧が強いため、生息環境が悪化し潮下帯からの幼生の補給がなくなれば、潮間帯では絶滅する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	江田島市 (大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**チゴマテガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-②**

*Solen kikuchii* Cosel, 2002

マルスダレガイ目 マテガイ科

環 境 省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概 要	殻長 2 cm 内外で殻はごく薄く、他のマテガイ類に比べ殻長は短く、殻表には艶のある薄茶色の殻皮がある。分布域は有明海・瀬戸内海。 潮間帯下部から水深 30 m くらいまでの砂泥地に潜って生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」には未記載種である。確認した 2000 年以前の生息状況は不明であるが、現在までの状況からごく少数しか生息していなかった貝であると思われる。砂泥に潜っているためか底引き網漁での確認数は生貝と死殻で計 4 個体と少ない。潮間帯においても同じような場所に生息するバラフマテなど他のマテガイ類に比べて少なく、確認できたのは 2 か所で各 1 個体ずつである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	砂泥の流入などの生息環境悪化により、潮間帯から潮下帯に生息するとはいえ、もともとから生息する個体数が少ないこの貝の絶滅する可能性は大きい。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 下蒲刈, 蒲刈), 竹原市

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)



**オオノガイ 絶滅危惧 I 類(CR+EN) CR+EN-①**

*Mya (Arenomya) arenaria oonogai* Makiyama, 1935

オオノガイ目 オオノガイ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 8 cm 内外で殻は長い卵形、後端はやや細くなる。殻表は白くつやがなく、殻の周辺にのみ殻皮が残っている個体が多い。分布域は北海道から九州。潮間帯下部の砂泥干潟に生息している。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の泥地に生息し、産状は「多い」となっている。潮間帯下部の砂泥干潟に 20 cm くらい潜って生息している。1970 年頃は各地の干潟で 10 個体くらい(多い干潟では 50 個体以上)採れ、食用にするほど生息していたが、その後急激に減少し、各地干潟ではまれに 1~2 個体確認できるくらいである。
存在を脅かす要因・保全の留意点	海岸への砂泥の流入など生息環境が悪化している。
特記事項	—
産地情報	呉市(呉, 音戸, 倉橋, 安浦, 川尻), 竹原市, 三原市(三原), 尾道市(向島), 東広島市(安芸津), 江田島市(江田島)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ウスヒメアワビ 絶滅危惧 II 類(VU) VU-②**

*Stomatella lintricula* (A. Adams, 1850)

古腹足目 ニシキウズ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 1 cm 内外で殻はアワビを極小さくしたような形であるが、殻上に孔はあいておらず、下膨れの楕円形。分布域は本州中部から沖縄。潮間帯下部の転石海岸の礫裏や礫の下に生息し、数個体でまとまって生息していることが多い。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」には未記載種である。生息しているときは数個体でまとまっていることが多いが、2001 年に生貝を確認して以降、生息を確認できるのが数年に 1 回くらいと少なく、継続して生息しているのを確認できた場所は 1 か所のみで生息数は少数と思われる。ただし潮下帯から刺し網漁で生貝を 1 個体確認していることから、潮下帯においては継続的に生息している可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	潮間帯においては、掘り起こしなど干潟の攪乱、砂泥の流入などにより生息環境が悪化している。潮間帯でこのまま生息環境が悪化していけば絶滅の可能性もある。
特記事項	—
産地情報	呉市(倉橋, 下蒲刈, 蒲刈, 豊浜)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**アシヤガマ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②**

*Stomatolina rubra* (Lamarck, 1822)

古腹足目 ニシキウズ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 2 cm 内外で螺塔は低く丸い。肩には強い螺肋が 2 本ある。軟体は殻より大きく取まらない。分布域は本州中部から九州・沖縄。 潮間帯下部の転石干潟にある礫裏、礫間などに生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~30 m の岩礁地に生息し、産状は「少ない」となっている。 1980 年に確認したころは、各地の海岸で 1 回の観察で生貝を 5 個体以上確認できていた。その後は穏やかに減少していき、1990 年までは各地の転石干潟で複数個体を確認できたが、2000 年頃からは 1 回の観察で生貝 1 個体を確認できるくらいに減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	釣りの餌採取のため転石掘り起こし攪乱が大きい海岸が多く、また砂泥の流入など生息環境が悪化している。海岸の立ち入り規制も必要と思われる。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈, 豊浜)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**スカシエビスガイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②**

*Sukashitrochus carinataus* (A. Adams, 1862)

古腹足目 クチキレエビス科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 1.5 mm 内外で扁平、体層には 3 本の太い肋があり、殻口付近の肩部に細いやじり型の細孔がある。分布域は北海道南部以南。 潮通しのよい転石海岸の潮間帯下部の礫裏に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、備後灘、燧灘、伊予灘の水深 0~30 m の砂礫地に生息し、産状は「稀」となっている。 2002 年に生貝を確認以降、生息するいずれの場所も個体数が少なく観察時、礫裏に 1 個体で付着していることが多く、数個体で見れることはまれである。2002 年確認したころは、精査すれば毎年確認することができたが、2010 年以降は数年に 1 回の確認となり、わずかずつであるが減少していると思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	人為的な転石海岸の攪乱、砂泥の流入などにより個体数が今より減少する可能性が大きく、生息域への立ち入りを制限する必要もあると思われる。
特記事項	—
産地情報	呉市 (下蒲刈, 豊浜), 三原市 (三原)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

セムシマドアキガイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

*Rimula cumingii* A. Adams, 1853

古腹足目 スカシガイ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 5 mm 内外の傘型で背がやや高く、殻表中央付近に細長いやじり状の穴が開く。分布域は本州中部以南から九州。 潮通しのよい潮間帯下部の礫地海岸の礫裏に生息しているが、生息数はほとんどの場合 1 個体で生息しており、複数個体でいることはまれである。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、伊予灘、伯方島の水深 0~30 m の岩礫地に生息し、産状は「少ない」となっている。 2001 年に生貝を確認以降、各生息地でも比較的大きな転石裏に 1 個体での生息が多く、複数個体での生息はまれである。潮通しのよい場所の礫裏は食用貝の生息場所でもあり、多くの場所で礫の攪乱がひどく礫が裏返されたままで放置され、近年確認できる個体数が減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	各地域とも人為的な礫の攪乱、自然災害による砂泥の流入など生息環境が悪化している。海岸への立ち入り制限も必要と思われる。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉、下蒲刈、豊浜）、三原市（三原）、東広島市（安芸津）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

ヘナタリ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

*Pirenella nipponica* Ozawa & Reid in Reid & Ozawa, 2016

新生腹足目 キバウミナ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 3 cm 内外、殻は高い円錐形で各層はほとんど膨れない。縦肋は上部で強く螺肋と交わり顆粒状となるが下部では弱くなる。殻口は外唇が外に翼状に反り張り出す。分布域は本州中部以南。 潮間帯中部の砂泥干潟の表面に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯上部から中部の汽水域の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 1978 年に生貝を確認して以降 2011 年まで多数の生息を確認しているが 1 か所の確認であり、海への砂泥の流入など生息環境の悪化により個体数が減少する可能性が大きい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	護岸工事、砂泥の流入など生息環境の悪化により絶滅あるいは激減する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市（安浦）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**カワアイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②**  
*Pirenella pupiformis* Ozawa & Reid in Reid & Ozawa, 2016  
 新生腹足目 キバウミニナ科

環境省: VU  
 広島県 2011: なし  
 広島県 2003: なし

概要	殻高 4 cm 内外, ヘナタリに似て殻は高い円錐形で各層はほとんど膨れない。各層にある螺肋は 3 本で、等間隔の螺肋と交わり四角い顆粒状となる。殻口の外への広がりは弱い。分布域は本州中部から沖縄。潮間帯中部の砂泥干潟の干潟上に露出して生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯高部から中部の汽水・河口域の砂泥干潟に生息し、産状は「多い」となっている。 1978 年から 2011 年まで 2 か所の生息地で各 100 個体以上多数生息しているのを確認しているが、2018 年の水害により 1 か所の河口干潟は土砂の流入、流出と生息環境が悪化し生息を確認できない。もう 1 か所の干潟は現在も多数の生息を確認できた。
存在を脅かす要因・保全の留意点	河口干潟など汽水域の干潟は水害、埋め立てなどにより生息環境が悪化しやすく、本種は生息地が限られていることから、その場所の環境が悪化すると直ちに絶滅または激減する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市(安浦)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.  
 奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**スジウネリチョウジガイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②**  
*Rissoina (Rissolina) costulata* Dunker, 1860  
 新生腹足目 ホソスジチョウジガイ科

環境省: VU  
 広島県 2011: なし  
 広島県 2003: なし

概要	殻高 4 mm 内外で殻は厚く細長い。殻表にはやや斜めの縦肋があり、殻口はやや広がり厚い。分布域は本州中部から九州。潮通しのよい潮間帯下部の転石干潟の半ば埋もれた礫裏に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の岩礫地に生息し、産状は「多い」となっている。 1999 年までは各地海岸で死殻しか確認できなかったが、2000 年以降各地の海岸で 1 回の観察で 1~2 個体くらい生貝が確認できた。2016 年では 1 回の観察で 5 個体くらい確認できるようになり生息数は少しは多くなった。ゴマツボのような個体数の減少は今のところ起きていない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	人為的な転石海岸の攪乱、砂泥の流入などによる生息環境悪化で、ゴマツボのような個体数減少を起こす可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市(呉, 音戸, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈, 豊浜, 豊), 竹原市, 三原市(三原), 尾道市(因島), 江田島市(大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.  
 奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ゴマツボ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②**

*Stosicia (Stosicia) annulata* (Dunker, 1860)

新生腹足目 ホソスジチョウジガイ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 4 mm 内外で殻は厚く殻表には太い螺肋があり、その間は溝状になっている。殻口は厚い。分布域は本州中部から九州。 潮通しのよい潮間帯下部の転石海岸にある半ば埋もれた礫裏に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の岩礫地に生息し、産状は「普通」となっている。 1999 年までは海岸で死殻は普通に確認できたが生貝は確認できなかった。2000 年以降各地の海岸で生貝が 5 個体くらいと少数ながら確認できだし、しだいに個体数も増加し、2015 年までは各地で 1 回の観察で 50 個体以上確認できた。しかし、2016 年以降急速に減少、1 回の観察で生貝 5 個体くらいの確認にまで減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	人為的な転石干潟の攪乱、洪水などによる砂泥が転石海岸に堆積するなど生息環境の悪化により、復活した個体数がまた減少に向かっている可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈, 豊浜, 豊), 三原市 (三原), 尾道市 (因島)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**シラギク 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②**

*Pseudoliotia astericus* (Gould, 1859)

新生腹足目 イソコハクガイ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高は 3 mm 内外のほぼ平巻で殻は厚く、殻表には 3 本の強い螺肋と強い縦肋が交わり強い格子目状になる。分布域は本州北部から九州。 潮通しのよい潮間帯下部の転石干潟の礫裏や半ば埋もれた礫裏に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂泥地に生息し、産状は「多い」となっている。 死殻は海砂や他の地域でも多いが、2002 年から生貝を確認して以降、生息している場所も個体数も少ない。礫裏に付いているときも普通は 1 個体で、多くて 2~3 個体で付着していることが多く、礫の攪乱によって生息する個体数が減少している海岸が多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	人為的な転石干潟の攪乱や砂泥の流入など生息環境が悪化している場所が多いため、生息する個体数が減少している場所が多い。今後海岸への立ち入り制限も必要かもしれない。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈, 豊浜), 三原市 (三原), 尾道市 (因島)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ヤセフタオビツマミガイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②**

*Mucronalia exilis* A. Adams, 1862

新生腹足目 ハナゴウナ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 3 mm 内外で殻は薄く半透明で各層の下部に褐色の螺線がある。殻表はつやがあり殻内が透けて見える。分布域は本州中部から九州。 潮間帯下部の砂泥干潟に生息する小型のクモヒトデ類（3種類と思われる）に外部寄生。クモヒトデ類は薄く泥に埋もれたくらいの砂泥地の表面に生息する。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0～60 m のミヤジクモヒトデに外部寄生し、産状は「普通」となっている。 死殻は 1987 年から確認しているが、生貝は 2009 年から 2016 年まで確認している。個体数は増減するがほぼ毎年 1～2 個体は寄生しているクモヒトデ類を確認できていたが、2018 年以降砂泥の流入等により生息環境が悪化しているため絶滅または個体数が減少している生息地が多いと思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	直接砂泥が堆積しなくとも細かな泥が広がり干潟全体が覆われてしまうと、寄生生活する本種とクモヒトデのどちらかが影響を受けても個体数が減少または絶滅してしまう。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉，下蒲刈，川尻），竹原市，三原市（三原），江田島市（大柿）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**オリレンシラタマ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②**

*Sigatica bathyraphe* (Pilsbry, 1911)

新生腹足目 タマガイ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 1 cm 内外で殻頂は低く殻は薄く丸い。縫合は折り込まれたように溝状になる。分布域は本州中部から沖縄。 潮間帯下部の砂泥干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、淡路，内区（備讃瀬戸，備後灘，燧灘等），伊予灘の潮間帯下部から水深 30 m の砂泥礫地に生息し、産状は「普通」となっている。 2011 年に生貝を確認以降 2016 年まで各地の干潟で確認しているが 1 回の観察で確認数は 2～3 個体と少なく、そのうえ幼貝が多い。潮下帯での確認は現在まで生死を問わずできないが、「瀬戸内海の貝類」に記載されているように潮下帯に多く生息している可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	現在のところ少数ながら継続して生貝の確認ができているが、人為的な干潟の攪乱，砂泥の流入，堆積により生息環境が悪化していることから絶滅する可能性もある。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉，下蒲刈），江田島市（大柿）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ツガイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②**

*Sinum incisum* (Sowerby in Reeve, 1864)

新生腹足目 タマガイ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻径 2 cm 内外で殻は平たくアワビ型、殻は薄く白色でその上に薄い淡褐色の殻皮があり、殻表には細かい螺溝が多くある。分布域は本州中部から沖縄。潮間帯下部から水深 30 m の砂泥地に生息する。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 1973 年に生貝を確認して以降、2015 年までの間、潮間帯下部の観察や水深 30 m くらいの底引き網漁で確認できても 1 回の観察でほぼ 1 個体しか確認できず、生息を確認した場所は多いが個体数は各地とも少ない。この間に生息可能な範囲は狭まり、生貝を確認できる場所も少なくなっている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	各生息地とも個体数が少なかったうえに、埋め立て、護岸工事、災害などによる砂泥の流入で生息可能な場所が減少し、さらに個体数が減少している。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈, 川尻), 竹原市, 三原市 (三原), 尾道市 (向島), 江田島市 (大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ナガニシ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②**

*Fusinus perplexus* (A. Adams, 1864)

新生腹足目 イトマキボラ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 13 cm 内外で殻は細長く、螺層は丸く膨れ螺肋が多数ある。水管はコナガニシに比べてまっすぐで長い。分布域は北海道南部から九州。潮間帯下部から水深 30 m 付近までの砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 60 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 1970 年に底引き網漁で生貝を確認して以降も多く生息していたようだが、1990 年以降は 1 回の底引き網漁で生貝 1~2 個体確認できるくらいに減少している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	広島県内島嶼部周辺の水深 30 m くらいの海底に 1990 年頃から軟泥が堆積して、底引き漁をしてもはいつてくる魚介類、他の生物もごく少なくなっている場所が多くなってきている。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 音戸, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈, 豊浜), 三原市 (三原)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

シナヤカスエモノガイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-②

*Eximiothracia concinna* (Gould, 1861)

異帯目 スエモノガイ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 2 cm 内外で殻は薄く横長でよく膨らむ。殻頂は中央にあり、後端は裁断状で殻表には微顆粒が多くある。分布域は本州中部から九州。 潮通しのよい潮間帯下部の砂干潟に生息している。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、備後灘、燧灘、水島灘、備讃瀬戸西部、播磨灘の水深 0~30 m の砂地に生息し、産状は「普通」となっている。 砂地に浅く潜って生息し、確認している生息地は 3 か所と少ないが、1990 年に確認して以降、2005 年まで、3 か所すべてごく狭い範囲に限られるが 1 回の観察で生貝 30 個体くらいを確認している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	潮通しのよい砂干潟を生息する適地としているので、泥の堆積などの環境悪化には弱い。現在 3 か所の生息地はすべてごく狭い範囲で 1 か所に多数生息しているが、生息地が少ないので、急速に減少する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市（倉橋）、江田島市（大柿）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

イソカゼガイ 絶滅危惧Ⅱ類(VU) VU-①, VU-②

*Basterotia gouldi* (A. Adams, 1864)

マルスダレガイ目 イソカゼガイ科

環境省: CR+EN

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 1 cm 内外で殻は厚く殻頂が著しく前方により、後方は丸い。分布域は本州中部から九州。 潮間帯下部の転石、砂泥干潟に生息するユムシ類の棲管に接して生息している。転石海岸では埋まった礫に付着していることが多く、殻が棲管に接しており礫と棲管の間で殻長が長くなれないためか殻幅が大きくなりずんぐりとした殻の貝が多い。砂泥海岸では殻長が長くなれるためか、細長い殻の貝が多く、一見、ハマカゼガイに似た殻のものが多い。ユムシ類の棲管に接して生息する個体数は幼貝が多いと個体数も多く、5 個体以上生息していることもあるが、大型の成員の場合 2~3 個体での生息が多い。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~30 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 イソカゼガイは同じ生息環境にいるハマカゼガイに比べて個体数は多く、2002 年に確認して以降、各地の生息数は、1 回の観察で 30 個体以上のユムシ類から 20 個体以上が確認できていた。2015 年からは、ユムシ類の数は以前と同じくらいなのに、イソカゼガイの生息数は急激に減少し、1 回の観察で 5 個体くらいしか確認できなくなっている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	5 年くらいの間の急激な減少は人為的な干潟の掘り起こしによる砂泥の攪乱、土砂の流入などによる生息環境悪化によるものか、もうしばらく確認する必要がある。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉、倉橋、下蒲刈）、竹原市、三原市（三原）、東広島市（安芸津）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)



**ツボミ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b**

*Patelloida conulus* (Dunker, 1861)

カサガイ目 ユキノカサガイ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 5 mm 内外で殻高はウミニナに付着するものは著しく高い。殻口は丸く、殻頂は中央にある。殻表は細かい放射肋がある網目状。分布域は本州北部から九州。 潮間帯中部の砂泥地に生息するウミニナの殻上、礫上に生息。ウミニナの殻上に生息するものは殻高が著しく高くなる。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯中部から下部のウミニナ類の殻上に生息し、産状は「普通」となっている。 1969年に生貝を確認した頃は1回の観察で10個体以上確認できたが、その後ウミニナが急減しツボミは確認できなくなった。1990年以降ウミニナが復活し、2010年には以前のように干潟一面にウミニナが生息している場所も多くなったが、ツボミはまだ5個体くらいしか確認できない場所が多い。
存在を脅かす要因・保全の留意点	現在はウミニナが以前のように復活した場所が多いためツボミも少数だが復活した場所も多いが、干潟の攪乱、砂泥の流入など生息環境が悪化している場所が多い。このため、また減少していく可能性も否定できない。
特記事項	—
産地情報	呉市(呉, 音戸, 倉橋, 安浦), 竹原市, 三原市(三原), 尾道市(因島, 向島), 福山市(内海, 沼隈), 廿日市市(宮島)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ツメナリミヤコドリ 準絶滅危惧(NT) NT-b**

*Phenacolepas unguiformis* (Gould, 1859)

アマオブネガイ目 ユキズズメガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 7 mm 内外で扁平な楕円形をしており内面の周囲は平らで、殻表は成長肋と放射肋が交わり細かい布目状になる。分布域は本州中部以南。 潮間帯下部の砂泥混じりの礫干潟の半ば埋もれた礫裏に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、備讃瀬戸西部, 水島灘, 備後灘, 燧灘, 伊予灘の潮間帯下部から水深 30 m の岩礫地に生息し、産状は「少ない」となっている。 生貝は2002年以降2か所のみで1~2個体と少数だが、死殻も少数だが各地で確認しており、新鮮な死殻の確認は2002年以降にも数か所あることから、生息している可能性は大きい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	半ば埋もれた礫裏に生息のため砂泥流入などの生息環境悪化により、確認できないうちに生息数が減少する可能性が大きい。
特記事項	—
産地情報	呉市(呉, 下蒲刈), 竹原市, 三原市(三原), 江田島市(大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

カシパンヤドリニナ 準絶滅危惧(NT) NT-a, NT-b

*Hypermastus peronellicola* (Kuroda & Habe, 1950)

新生腹足目 ハナゴウナ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 7 mm 内外でやや薄質の長円錐形、殻表は光沢のある白色半透明。この科の貝は特徴に乏しく、寄主と一緒に確認できないと種の同定が困難なものが多い。分布域は本州中部から九州。潮間帯下部から水深 10 m くらいの砂地に生息するヨツアナカシパンに外部寄生。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、尾道市細ノ洲の潮間帯下部から水深 30 m のヨツアナカシパンに外部寄生し、産状は「普通」となっている。 1980 年には尾道市でヨツアナカシパンに寄生しているのを普通に確認できたが、その後潮間帯のヨツアナカシパンが見られなくなり、本種も潮間帯では見られない。2011 年呉市倉橋島沖の底引き網漁でヨツアナカシパンに寄生している本種を確認、近辺の潮下帯ではかなり生息していると思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	海砂採取、災害による砂泥の流入などによる生息環境悪化で潮間帯のヨツアナカシパンが見られない状態である。カシパンヤドリニナも潮間帯では見られなくなり潮下帯のみの生息となっている。
特記事項	—
産地情報	呉市 (倉橋), 三原市 (三原), 尾道市 (因島)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

ヒモイカリナマコツマミガイ 準絶滅危惧(NT) NT-b

*Mucronalia lactea* A. Adams, 1863

新生腹足目 ハナゴウナ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 4 mm 内外で殻は薄く、殻表は半透明で光沢がある。胎殻はつまみ状に突出する。分布域は本州中部から九州。潮間帯中部から下部の砂泥礫干潟に生息するヒモイカリナマコに内部寄生。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m のヒモイカリナマコに内部寄生し、産状は「普通」となっている。 時期により体内寄生するのか、ヒモイカリナマコ 1 個体に 10 個体以上確認できることもあれば、まったく確認できないことも多くある。 死殻は 2002 年から確認しているが生貝の確認は 2009 年からで現在までに 2 か所の確認であるが、ヒモイカリナマコの生息が確認できており精査すればまだ本種の生息が可能と思われる干潟は 5 か所以上ある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	人為的な干潟の攪乱、砂泥の流入など生息環境の悪化による生息数の減少は他種より大きい。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 下蒲刈, 川尻), 竹原市

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**フロガイダマシ 準絶滅危惧(NT) NT-b**

*Naticarius concinnus* (Dunker, 1860)

新生腹足目 タマガイ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 1.5 cm 内外で、殻はやや厚くほぼ球形で螺塔は低い。殻表には不規則な濃褐色斑がつながってある。蓋には強い肋が 6 本内外ある。分布域は本州中部から九州。潮間帯下部の砂泥干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 1985 年以降死殻は少数確認できていたが、2006 年以降各地の干潟で生貝が 1 回の観察で 5 個体くらいは見られるようになった。しかし、成貝と思えるものはその中の 1 個体くらいで、ほとんどが幼貝で成長すると深みに行くのか確認できる成貝は少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	2006 年以降生貝が確認できるようになったが、干潟の攪乱、砂泥の流入など生息環境が悪化しているため、今後生貝の確認が困難になる可能性が大きい。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈, 安浦), 竹原市, 三原市 (三原), 尾道市 (因島, 向島), 東広島市 (安芸津), 江田島市 (江田島, 大柿), 熊野町

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**キヌタレガイ 準絶滅危惧(NT) NT-b**

*Solemya (Petrasma) pusilla* (Gould, 1861)

キヌタレガイ目 キヌタレガイ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 1 cm 内外で殻は薄くよく膨らむ円筒形。殻には茶色の太い放射体があり、殻皮は殻腹を超えて伸び、生時は殻が少し開きそこに殻腹縁より伸びた殻皮が覆っている。分布域は北海道南部から九州。潮間帯下部の砂泥地に Y 字型の棲管を作り中に生息。生息数はアサヒキヌタレガイより多く、潮通しのよい砂泥干潟であれば多くの個体が生息している場所が多い。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 1977 年に呉市で生貝を確認して以降、各地干潟で 1 回の観察で生貝を 10 個体以上できているが、以前に比べれば干潟が消失したり、生息可能な範囲が狭くなった場所が多い。災害による砂泥の流入等もありこのまま干潟の環境が悪化すれば生息数は減少すると思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	埋め立て、災害等による砂泥の流入、細かい泥が広範囲に覆うなど干潟の環境悪化が大きくなり、個体数が大幅に減少する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈), 竹原市, 三原市 (三原), 尾道市 (因島), 東広島市 (安芸津), 廿日市市 (大野), 江田島市 (大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**マツモトウロコガイ 準絶滅危惧(NT) NT-b**

*Paraborniola matsumotoi* Habe, 1958  
マルスダレガイ目 チリハギガイ科

環境省: NT  
広島県 2011: なし  
広島県 2003: なし

概要	殻長 8 mm 内外で殻は薄く膨らむ長卵型。殻表は成長線で覆われる。分布域は本州北部から九州。潮間帯下部の転石海岸の半ば埋もれた礫裏に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海内区（備讃瀬戸、水島灘、備前、備後灘、燧灘）の潮間帯下部から水深 30 m の岩礫地に生息し、産状は「普通」となっている。 1981 年に呉市で生貝 1 個体を確認後 1993 年まではまったく確認できなかったが、それ以降、各地の海岸で 2~5 個体と複数確認することが多くなった。しかし、近年生息環境が悪化しており、確認できる個体数も 1 回の観察で 0~2 個体と少なくなっている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	礫の攪乱、砂泥の流入等生息環境が悪化し、各地に生息する個体数が減少している。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉、倉橋、下蒲刈、川尻、豊浜）、大竹市、東広島市（安芸津）、江田島市（大柿）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.  
奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ミジンコチョウシャクシ 準絶滅危惧(NT) NT-b**

*Leptomya minuta* Habe, 1960  
マルスダレガイ目 アサジガイ科

環境省: なし  
広島県 2011: なし  
広島県 2003: なし

概要	殻長 3 mm 内外で殻は薄いがよく膨らみ、前端は丸くなり、後端は細くなり尖る。分布域は和歌山県から瀬戸内海。潮間帯下部の泥の多い砂泥干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海の備後灘、国東半島の水深 0~30 m の砂泥地に生息し、産状は「少ない」となっている。 死殻は 1985 年から潮間帯などで確認しているが、生貝は 2002 年以降に各地で確認している。2002 年頃は 1 回の観察で 10 個体以上確認できることも多かったが、近年では生息環境の悪化により 1 回の観察で 5 個体くらいと減少傾向にある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	干潟の攪乱、砂泥の流入等生息環境悪化が進み、各干潟に生息する個体数が減少している。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉、倉橋、下蒲刈、蒲刈、川尻）、竹原市、三原市（三原）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.  
奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**エゾマテガイ 準絶滅危惧(NT) NT-b**

*Solen krusensternii* Schrenck, 1867

マルスダレガイ目 マテガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 10 cm 内外で殻は細長く背側へやや曲がり、マテガイより殻は太い。マテガイは殻は細長くエゾマテガイのように背側に曲がらずまっすぐである。分布域は瀬戸内海以北。 潮間帯下部の砂泥干潟に生息。 北方系残存種と言われている種。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海の東区（大阪湾、播磨灘、淡路）、備讃瀬戸西部、水島灘、伯方島、伊予灘の水深 0~30 m の砂地に生息し、産状は「少ない」となっている。 生貝の確認は 2011 年に呉市で 1 個体確認、同じ場所で 2014 年にも 1 個体確認したのみで、死殻も潮間帯、底引き網漁でも少ないが、生息している可能性のある干潟が他にもあり調査が必要。
存在を脅かす要因・保全の留意点	北方系残存種と言われる種類で個体数も少ないこともあり、温暖化には弱いと思われる。とくに干潟への土砂流入など環境悪化が加われば個体数が減少する可能性があると思われる。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**チビニオガイ 準絶滅危惧(NT) NT-b**

*Nipponopholas satoi* Okamoto & Habe, 1987

オオノガイ目 ニオガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 1 cm 内外で殻は短い柳葉状で前腹縁は広く開く。殻表の前方は輪肋と成長脈が交わり布目状となるが後方は成長脈のみ。分布域は本州中部から九州。 潮間帯下部から水深 60 m の泥岩、砂岩、大きな死殻、沈木等に穿孔して生息。同じような環境に生息するニオガイに比べて生息数は少ない。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」には未記載種である。 生貝の確認は 2001 年から各地でしているが、個体数は海岸の砂岩、泥岩、底引き網漁で揚がった大きな死殻、沈木等を調査しても同じ生息環境のニオガイよりはるかに少ない。生息環境の変化に弱いと思われる環境悪化により生息数が減少する可能性が大きい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	砂泥の流入など環境悪化により減少すると思われる。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉、倉橋、下蒲刈、蒲刈）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ネムグリガイ 準絶滅危惧(NT) NT-b**

*Zachsia zenkewitschi* Bulatoff & Rjabtschikoff, 1933

オオノガイ目 フナクイムシ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	アマモ、コアマモの地下茎に穿孔し内部に石灰質の棲管を作り生息しており、軟体より殻は著しく小さく殻長 2 mm 内外。水管の基部に 2 枚の尾栓がある。分布域は本州北部から九州。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~30 m のアマモ属の地下茎に穿孔して生息し、産状は「普通」となっている。 1970 年頃に比べれば、アマモの生えている干潟は埋め立てなどにより減少しており、とくに潮間帯から潮下帯まで連続して観察できる干潟はごく少ない。近年、アマモが突然消失、また再生するなど極端な変化が起きている場所が多く、再生が大幅に減れば本種は減少に向かう危険が大きい。
存在を脅かす要因・保全の留意点	干潟の減少、砂泥流入などの生息環境悪化によりアマモ類が減少すれば、それ以上にネムグリガイは減少する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋), 東広島市 (安芸津), 江田島市 (大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**イワカワチグサ 情報不足(DD) DD-a**

*Iwakawatrochus urbanus* (Gould, 1861)

古腹足目 ニシキウズ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 5 mm 内外で殻は亜三角形をしており、殻表には細かい螺肋が多くある。分布域は本州中部から沖縄。 潮間帯下部の岩礁上の海藻上、砂泥干潟のアマモ帯に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の海藻上とアマモ帯に生息し、産状は「多い」となっている。 1975 年にアマモ帯で生貝を確認して以降、海藻上、アマモ帯で 2010 年まで継続して確認するが、1 回の観察で生貝 1~2 個体とごく少数であった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	砂泥の海への流入により、細かい泥が干潟の広範囲に広がり岩やアマモ帯が覆われて本種の生息を脅かしている。
特記事項	—
産地情報	呉市 (倉橋, 下蒲刈), 竹原市

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ヒメカタベ 情報不足(DD) DD-a**

*Liotina semiclathratula* (Schrenck, 1862)

古腹足目 ヒメカタベ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻径 6 mm 内外で殻は厚く螺層は丸く膨れる。螺塔は低く 3 本の螺肋と縦肋が交わり規則的な格子目となる。分布域は北海道南部から沖縄。潮通しのよい潮間帯下部の礫干潟の礫裏に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~30 m の砂礫地に生息し、産状は「普通」となっている。死殻は 1973 年から海岸の打上や底引き網漁で 1~2 個体くらい時々確認していたが、生貝は 2002 年から 2016 年まで 3 か所の干潟で 2~3 回確認し、それぞれの回で 1~2 個体と少ないが断続で確認している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	各干潟での生息数は少なく干潟の攪乱、砂泥の流入等、生息環境悪化しているため今後減少する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈), 三原市 (三原), 江田島市 (大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**チグサカニモリ 情報不足(DD) DD-a**

*Plesiotrochus acutangulus* (Yokoyama, 1924)

新生腹足目 チグサカニモリ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 8 mm 内外で長円錐形、螺層の周縁は強く角張り縫合との間はくびれ、強い縦肋も現れる。分布域は本州中部以南。潮間帯下部の岩礁地帯のタイドプール内の海藻の根元に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の海藻上に生息し、産状は「普通」となっている。死殻は 1999 年から各地の海岸で 1 個体と少ないが確認している。生貝は呉市で 1 回の観察で 2 個体のみ確認している。各地の岩礁転石海岸での観察でも確認できる個体数は生貝、死殻とも少なく、数年に 1 回くらいで、評価するには情報が不足している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	もともと個体数が少ないうえ、干潟の攪乱、砂泥の流入など生息環境が悪化しているため、今後さらに減少する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市 (倉橋, 下蒲刈), 三原市 (三原), 江田島市 (大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

クリンイトカケ 情報不足(DD) DD-a

*Amaea thielei* (de Boury, 1913)

新生腹足目 イトカケガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 3 cm 内外で殻表の縦肋と螺肋はともに細く交わって布目状になる。底盤は明瞭にある。分布域は本州中部から九州。 潮間帯下部から水深 30 m の砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 1985 年から死殻は 1 回の干潟や底引き網漁の観察で各 1 個体、2005 年から生貝を潮間帯下部、底引き網漁で各 1~2 個体と少数であるが、数年に 1 回の割合で 2010 年まで継続して確認している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	少数個体の確認が続いているが、干潟の攪乱、砂泥の流入など生息環境が悪化すると個体数がさらに減少する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 音戸, 倉橋, 下蒲刈), 竹原市, 三原市 (三原), 尾道市 (因島, 向島), 廿日市市 (宮島), 江田島市 (江田島, 能美, 沖美, 大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

クレハガイ 情報不足(DD) DD-a

*Epitonium clementinum* (Grateloup, 1840)

新生腹足目 イトカケガイ科

環境省: NT

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 1.5 cm 内外で体層は強く膨らむ。セキモリに似るが体層の縦肋の太さは不規則である。分布域は本州中部以南。 潮間帯下部の砂泥干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂泥地に生息し、産状は「稀」となっている。 死殻は 1975 年から各地でまれに 1 個体確認していた。2005 年、2006 年に 2 か所の干潟で生貝の成員が 1 回の観察で 2~3 個体確認できたが、その後減少していき、現在は幼貝をまれに確認できるくらいとなっている。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息する個体数が少ないうえに、干潟の攪乱、砂泥の流入など生息環境悪化が続いており、このまま減少していく可能性もある。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈), 三原市 (三原), 尾道市 (因島)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)



## イナザワハベガイ 情報不足(DD) DD-a

*Alexania inazawai* (Kuroda, 1943)

新生腹足目 イトカケガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 5 mm 内外で殻は薄く茶色で淡水産のヒメモノアラガイに似ている。殻表には縦肋も螺肋もなく、体層は丸い。分布域は本州中部から九州。 潮間帯中部の岩礁や礫に付着しているタテジマイソギンチャクに寄生または付着する。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海の内区（備前、備讃瀬戸、水島灘、備後灘、燧灘）、伊予灘、周防灘の潮間帯下部から水深 30 m のタテジマイソギンチャクに半外部寄生し、産状は「少ない」となっている。 2013 年に呉市でタテジマイソギンチャクに卵塊と一緒に数個体で生息しているのを初めて確認した。それ以降は、他の場所で 1 回確認したのみで、死殻の確認も 1 か所のみと少なく、評価するだけの情報が不足している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	転石干潟の攪乱、砂泥の流入による生息環境の悪化。生貝の確認が 2 回、死殻の確認も 1 回と少ないため、各地の増減を継続して観察する必要がある。
特記事項	—
産地情報	広島市（南区）、呉市（倉橋、下蒲刈）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

## ヨフバイ 情報不足(DD) DD-a

*Nassarius (Telasco) sufflatus* (Gould, 1860)

新生腹足目 ムシロガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 2 cm 内外で殻はやや膨れ、殻表は光沢があり、淡褐色の細かい模様がある。外唇には小さい棘がある。分布域は本州北部以南。 潮間帯中部から下部の砂泥礫干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の潮間帯下部から水深 30 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 1980 年に生貝を確認以降、2010 年まで、1 回の観察で 2~3 個体は継続して確認していた。2018 年の災害で多量の砂泥が海に流入し礫地が埋没したり、細かい泥が礫海岸をおおってしまったところが多く出現し、生息していた貝を含む生物の減少が著しい場所が多数ある。数年は復活するか経過を観察する必要がある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	災害などにより砂泥が干潟に流入、細かい泥が広範囲に広がり各地の干潟に堆積するなど、生息環境が悪化している。そのためか 2018 年以降この種の確認が困難になっている。
特記事項	生息の状態はもう数年観察する必要がある。
産地情報	呉市（呉、倉橋、下蒲刈、安浦、豊浜）、竹原市、三原市（三原）、尾道市（因島、向島）、廿日市市（宮島）、江田島市（江田島、能美、沖美、大柿）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

ウスオビフタナシシャジク 情報不足(DD) DD-a

*Asperdaphne subzonata* (E. A. Smith, 1879)

新生腹足目 フデシャジク科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 1.5 cm 内外で、殻表には強い縦肋が螺塔には明らかにあるが、体層では消失するか弱くなる。螺肋は全面に細かくある。分布域は本州中部から九州。潮間帯下部の転石海岸に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0～60 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。死殻は 1987 年からごくわずかに確認していた。生貝は、2003 年から 2016 年まで各地の海岸で数年に 1 回の観察で 1～2 個体と少数ながら確認している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	転石海岸の攪乱、砂泥の流入などにより生息環境が悪化しており、個体数の増減を継続して観察する必要がある。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉）、竹原市、三原市（三原）、尾道市（因島、向島）、福山市（内海、沼隈）、東広島市（安芸津）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

フデシャジク 情報不足(DD) DD-a

*Daphnella radula* Pilsbry, 1904

新生腹足目 フデシャジク科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 1.5 cm 内外で殻は薄く、細長い紡錘形。殻表は細かい螺肋と縦肋で布目状となる。分布域は本州中部から九州。潮間帯下部の礫干潟の礫裏に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0～60 m の砂泥礫地に生息し、産状は「普通」となっている。1999 年までは各地の海岸で死殻の確認もできなかったが、1999 年以降 2016 年まで各地の海岸で多い時で 5～6 個体、少ない時で 1 個体と継続して確認できるようになった。
存在を脅かす要因・保全の留意点	確認できる個体数が少なく、干潟の攪乱、砂泥の流入などの生息環境の悪化により、さらに減少する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉、倉橋、下蒲刈、川尻）、竹原市、三原市（三原）、江田島市（大柿）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**カリガネガイ 情報不足(DD) DD-a**

*Unedogemmula deshayesii* (Doumet, 1840)

新生腹足目 クダマキガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 7 cm 内外で螺塔は円錐形。螺肋は弱く、縫合のくびれも弱い。殻口唇は薄い。分布域は本州中部から九州。 潮下帯の水深 30 m 付近の砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海東区（大阪湾，播磨灘，淡路），備讃瀬東部，備前，安芸灘（伊予小部），伊予灘の水深 50～120 m の砂泥地に生息し，産状は「稀」となっている。 今までに 1991 年，2004 年に底引き網漁で成貝の生貝を各 1 個体確認できたのみである。この間に死殻，幼貝もまったく確認できておらず生息状況が不明である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	まれに確認できるだけの個体数のため，砂泥の流入など生息環境が悪化している現在，調査継続しているうちに減少する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市（下蒲刈）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会，広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部，神奈川.

(濱村陽一)

**ナワメグルマ 情報不足(DD) DD-a**

*Heliacus (Torinista) enoshimensis* (Melvill, 1891)

低位異鰓目 クルマガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻径 1 cm 内外で殻は平たい。周縁に 2 本の肋があり，殻表は縄目状の彫刻がある。分布域は本州中部から九州。 潮間帯下部の礫裏に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば，瀬戸内海全域の水深 0～30 m の砂泥地に生息し，産状は「少ない」となっている。 死殻の確認は 1975 年から各地で 4 回で各 1 個体，生貝は 2004 年，2009 年の 2 回で各 1 個体と生息数が少なく，数年に 1 回くらいの確認とごく少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息数が少ない上に干潟の攪乱，砂泥の流入などにより，生息環境が悪化し個体数が減少する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市（呉，倉橋，下蒲刈），三原市（三原），尾道市（因島）

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会，広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部，神奈川.

(濱村陽一)

マメウラシマ 情報不足(DD) DD-a

*Ringiculina doliaris* (Gould, 1860)

低位異鰓目 マメウラシマ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 5 mm 内外で殻は厚い球体状で光沢がある白色。殻表には細い螺溝が広い間隔であり、外唇は厚くなる。分布域は北海道南部以南。潮間帯下部の砂泥干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の泥地に生息し、産状は「多い」となっている。死殻は 1987 年から海岸への打上げなどで確認している。生貝は 2002 年から 2017 年まで各地の干潟で継続して確認しているが、死殻、生貝とも 1 回の観察で確認できる数は 1~2 個体と少ない。
存在を脅かす要因・保全の留意点	干潟の攪乱、砂泥流入などによる生息環境の悪化。生息に留意していくことが必要である。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈, 川尻), 竹原市, 三原市 (三原), 福山市 (内海)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

ウズマキキセワタ 情報不足(DD) DD-a

*Nakamigawaia spiralis* Kuroda & Habe, 1961

真後鰓目 カノキセワタガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻径 5 mm 内外で殻は薄く白色透明で軟体内にある。殻は上方で狭く、下方で開いた板状で平たく離れて巻いている。分布域は本州中部から九州。潮間帯中部以深の砂泥干潟に浅く埋まり生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、向島, 松永湾, 伯方島の潮下帯下部から水深 30 m の砂泥地・アマモ帯に生息し、産状は「少ない」となっている。死殻の確認は 2 か所で各 1 個体 1987 年から確認しているが、生貝の確認は現在 1 か所のみで、2009 年と 2015 年の 2 回で各 1 個体とごく少数の確認である。
存在を脅かす要因・保全の留意点	死殻の確認も含めて 3 か所のみで個体数も少なく、干潟の攪乱、砂泥の流入など生息環境悪化により、さらに減少する可能性もある。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉), 三原市 (三原), 江田島市 (大柿)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

カイコガイダマシ 情報不足(DD) DD-a

*Liloa porcellana* (Gould, 1859)

真後鰓目 ブドウガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 1.5 cm 内外で殻は薄く、白色半透明で円筒形。殻表上下端近くには螺溝があるが、中央は平滑である。分布域は本州中部以南。 潮間帯下部の砂泥干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 干潟では、死殻は 1985 年からの観察でまれに 1 個体が、生貝は 2009 年からの観察で数年に 1 回、1~2 個体が確認される程度で、生息数はごく少ないと思われる。「瀬戸内海の貝類」によると潮下帯にも生息するので、潮下帯の砂泥地を細かい網で底引き調査できれば生息地と個体数を確認できる可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	干潟の攪乱、砂泥の流入などによる生息環境の悪化。生息に留意していくことが必要である。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈), 竹原市, 三原市 (三原)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

カミスジカイコガイダマシ 情報不足(DD) DD-a

*Cylichnatys angustus* (Gould, 1859)

真後鰓目 ブドウガイ科

環境省: VU

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻高 8 mm 内外で殻は俵型で薄く、白色半透明。殻表には細い螺溝が全面にある。分布域は北海道南部以南。 潮間帯下部の砂泥干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~60 m の泥地に生息し、産状は「多い」となっている。 干潟では死殻は 2005 年からごく少数確認しており、生貝は 2009 年から各地の干潟でまれに 1~2 個体確認している。「瀬戸内海の貝類」によれば潮下帯の貝であり、泥地を細かい網による底引きの調査ができれば、生息地と個体数を確認できる可能性もある。
存在を脅かす要因・保全の留意点	干潟の攪乱、砂泥の流入などの生息環境の悪化。生息に留意していくことが必要である。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 下蒲刈), 竹原市, 尾道市 (向島)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版] . 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**ヨコヤマミエガイ 情報不足(DD) DD-a**

*Arcopsis interplicata* (Grabau & King, 1928)

フネガイ目 サンカクサルボウ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻は長い箱型でよく膨らみ、殻表は放射肋と輪状脈が交わり布目状となる。分布域は本州中部から九州。潮下帯の水深 30 m くらいの砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、瀬戸内海全域の水深 0~120 m の砂泥地に生息し、産状は「普通」となっている。 1973 年から 2012 年まで底引き網漁で 1 回の観察で 2~4 個体継続して確認しており、2009 年には干潟で 1 個体確認している。
存在を脅かす要因・保全の留意点	生息する個体数が少ないため、干潟の攪乱、砂泥の流入等による生息環境悪化で個体数が減少する可能性がある。
特記事項	—
産地情報	呉市 (呉, 倉橋, 下蒲刈, 蒲刈), 竹原市, 三原市 (三原), 福山市 (内海, 沼隈), 江田島市 (江田島)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

**アワジチヒロ 情報不足(DD) DD-a**

*Volachlamys hirasei* (Bavay, 1904)

イタヤガイ目 イタヤガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 5 cm 内外, 殻は扇形で膨らみは少なく, 殻表には強い平滑な放射肋が 13~18 本ある。アワジチヒロはヤミノシキの肋が強く出た型をいい, 同種である。分布域は瀬戸内海・有明海・東シナ海。水深約 30 m の砂泥地に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば, 瀬戸内海全域の水深 0~60 m の砂地に生息し, 産状は「少ない」となっている。 1983 年から 2012 年まで, 大崎下島から倉橋島の間で合計 15 回以上, 1 日 5 回くらい底引き網漁をして観察したが, 生貝を確認できるのは数年に 1 回, 1~2 個体くらいとごくまれである。この状態が続いていることからごく少数の生息が継続していると思われる。
存在を脅かす要因・保全の留意点	近年生息環境が変化しているため, 生息に留意していくことが必要である。
特記事項	—
産地情報	呉市 (倉橋, 下蒲刈, 蒲刈), 竹原市, 三原市 (三原), 尾道市 (因島, 向島), 福山市 (内海, 沼隈)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

ノムラスエモノガイ 情報不足(DD) DD-a

*Trigonothracia pusilla* (Gould, 1861)

異帯目 スエモノガイ科

環境省: なし

広島県 2011: なし

広島県 2003: なし

概要	殻長 1 cm 内外で殻はごく薄く、白色半透明で膨れる。殻の後部は短いくちばし状になる。分布域は北海道南部から九州。 潮間帯下部の砂泥干潟に生息。
生息・生育状況	「瀬戸内海の貝類」によれば、伯方島、安芸灘、秋穂の水深 0～60 m の砂泥地に生息し、産状は「稀」となっている。 潮間帯下部の砂泥干潟に生息。2009 年から各地の干潟でまれに生貝 1 個体を確認している。2011 年だけは、呉市と東広島市の 2 か所の干潟で生貝 10 個体以上を確認したが、その場所もそれ以降は 2～3 年に 1 個体確認できる状態に戻っている。
存在を脅かす要因・ 保全の留意点	干潟の攪乱、砂泥の流入などの生息環境の悪化。生息に留意していくことが必要である。
特記事項	—
産地情報	呉市(呉)、竹原市、東広島市(安芸津)

稲葉明彦 1982. 瀬戸内海の貝類. 181pp. 広島貝類談話会, 広島.

奥谷喬司 2017. 日本近海産貝類図鑑 [第二版]. 1,375pp. 東海大学出版部, 神奈川.

(濱村陽一)

